

名古屋大学博物館友の会写真サークル

Web写真展

写真サークルの会員が最近撮影した写真の中から選んだ作品展です。コロナ禍で思うように外出できない日々が続き、顔を合わせての活動もできませんでした。写真展開催を目標に掲げ、身近なところでシャッターチャンスを狙いました。個性あふれる作品をどうぞお楽しみください。

名古屋大学博物館友の会 写真サークルとは

名古屋大学博物館友の会の会員のなかで、写真撮影に関心があるひと、写真をもっとうまく撮りたいひとが集まって、会員相互の意見交換により撮影の腕を磨いています。みなさんも一緒に活動してみませんか？

写真サークルの活動例

- ① 8回/年程度の例会の開催
- ② 1,2回/年程度名大野外観察園などで会員の写真展を開催
- ③ 写真撮影に関する情報交換

友の会入会時に写真サークル入会希望とただし書きしてください。初心者歓迎！
詳細は下記のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.num.nagoya-u.ac.jp/research/tomonokai.html>



夕陽の中に

五十川 修

湖北水鳥公園内の野鳥センターでの情報どおり、この日オオタカが飛来しました。2時間ばかりかけてカモをハンティングし、捕食する様子が観察できました。その後、対岸の比良山系に沈む夕陽に重なろうとするように、湖岸の柳の枝に止まりました。これは願ってもないシャッターチャンスです。夕陽の中にすっぽりオオタカの姿が入る構図を得るために急いで移動し、夢中でシャッターを切りました。

撮影日：2021年2月10日 撮影地：滋賀県長浜市 湖北水鳥公園



春の女神

五十川 修

春の訪れとともに、黄色と黒を基調に赤や青を配した美しい羽色で生まれるギフチョウ。春の女神と称される所以です。日本の固有種ですが、岐阜県でも落葉広葉樹林の低山地が宅地等に開発され、個体数が著しく減少しています。この日は、雑木林に咲くミツバツツジの花に羽を休めているところを見つけました。鮮やかなピンクにギフチョウの羽色がよりいっそう美しく映えていました。

撮影日：2020年4月16日 撮影地：岐阜県揖斐郡揖斐川町谷汲



ホバーリング

五十川 修

この日は、ヤドリギが群生している川原へレンジャクの撮影を目的に出掛けました。待っていてもレンジャクには出会えずあきらめて歩いていたところ、すっかり熟した柿がたくさんぶら下がる柿畑で、得意のホバーリングをしながら柿に食らいつくヒヨドリを見つけました。初列風切羽が大変美しく、この羽の動きをシャープに表現したいと思い、シャッタースピードをかなり上げて撮影しました。

撮影日：2020年1月22日 撮影地：岐阜県揖斐郡揖斐川町 根尾川の川原



夕暮れ時

五十川 眞知子

家から車で10分ほど走ると、霞間ヶ溪に到着します。桜と溪谷が美しい場所で、桜の季節にはたくさんの方が訪れます。しかし、コロナ禍の最中では人出も少なからうと出かけたところ、通称「メガネ橋」と呼ばれる場所で多くの方が撮影の順番待ちをしていました。昼間に通ると、なんということのないところですが、正面近くから入る西日のおかげで、満開を少し過ぎた桜とトンネルが非日常の雰囲気をつくってくれました。

撮影日：2020年3月22日 撮影地：岐阜県揖斐郡池田町 霞間ヶ溪



あらっ、こんにちは！ 五十川 眞知子

いつも季節が変わるたびに、広い庭があるこのお寺に出掛けます。この日も秋の気配を求めて歩いていたら、1匹の猫がトコトコやって来ました。しばし毛づくろいの後、ちょこんと私の前に座り、「撮ってくださいな。」と言わんばかりにこちらを向いてすまし顔です。私も思わず「あらっ、こんにちは！どこの子かな。よろしくね！」とシャッターを押しました。

撮影日：2020年9月29日 撮影地：岐阜県揖斐郡揖斐川町 瑞巖寺



季の流れ

五十川 眞知子

山室湿原は、手軽に訪れることができ、1年を通して様々な湿地植物に出会える場所です。毎年春になると、勢いよくウラジロが芽吹きます。訪れた日は、初夏の明るい日差しの中で若い葉に混じって枯れゆく葉も同じようにその存在を主張していることに気付きました。何枚か取り進めるうちにそれぞれの対比が分かりやすく表現できる構図を見つけることができました。

撮影日：2020年6月7日 撮影地：滋賀県米原市 山室湿原



万葉の花 ”ノハナショウブ”

市枝真木子

友の会ニュースレターの「万葉の花」コーナーで初回に載せて頂いた花です。東山植物園に何度も訪れ、三矢先生にご指導頂きながらやっと撮れた1枚です。コロナ禍で休園が多く、開花時期を見定めるのが難しく苦労しました。しかし緑の背景（湿地）にきりっとした佇まい、紫の花がとても映えて美しいです。古名は「花かつみ」。知多郡阿久比町(株)デンソー阿久比製作所北側に「花かつみ園」があり、古来より人々が大事に育て、今では毎年魅了する花を咲かせているとのこと。是非一度訪れてみたいものです。



あなたの名前は “ワルナスビ!!” 市枝真木子

梅雨明けから早朝散歩を始め、河川敷で可憐な花を見つけました。薄紫色でナスやジャガイモに似た花。朝日が射して愛らしいです。ところが何と！これはワルナスビ、オニナスビとも呼ばれる要注意外来種。茎や葉に鋭い棘があり、又ソラニンという毒を持つ強駆除対象の植物でした。驚きました!! こんな恐い植物だとは思っていませんでした。でも秋にはプチトマトのような黄色い実が付くそうですよ。ちょっと見てみたいですね。しかし、試食は厳禁!!



暑っついなあ～ ”ペロペロ” 市枝真木子

久しぶりに東山動物園を訪れました。正門を入れて右手に行くとインドサイが水を浴びながら気持ち良さそうにしています。そして、おもむろに立ち上がってペロペロ水を舐め始めました。短い舌で盛んにペロペロやっている様子が可愛らしく、慌ててシャッターを切りましたが、少々ボケてしまいました。舌が出ているタイミングを狙ったのですが・・・。返す返すも残念です。



シンメトリーな世界へ 梅原 誠人

夕陽に映える名港中央大橋を撮ろうと名古屋港に出かけました。生憎と撮影場所には朝から降った雨で大きな水たまりがありました。カメラに水がかからないよう注意してカメラを設置し撮影したところ、風景が鏡の様に上下シンメトリーとなって、何だか不思議な世界を感じる写真を撮ることができました。なお、作品はより不思議な感じを表現したいと思い、敢えて上下逆さまにしています。お気づきになりましたか？



生命をつなぐハートリング 梅原 誠人

本年6月12日に名古屋大学博物館野外観察園で体長4cmほどのベニイトトンボの交尾の様子を撮影しました。次の生命に繋げるために雌雄が連結した形はまるで赤いハートリングのようで、懸命に生きる小さな生命のすばらしさに感動しました。なお、園内は多様な植物だけでなく、体長が日本一小さなトンボといわれるハッチョウトンボなど貴重な昆虫も多く生息する豊かな環境が整う素晴らしい観察園です。



賑やかな秋

梅原 誠人

世界遺産として知られる白川郷を昨年10月に訪ねました。コロナ禍の影響で村内はたいへん静かで、歴史的に貴重な山村をカメラ片手にのんびり散策することができました。萩町辺りに差し掛かると、コスモス畑で合掌造りを背景に何やら楽し気にポーズを取る人影が見え、何かな？と思い、近づいてみると、なんと案山子たちでした。それぞれの表情やピースサインなどに思わずほっこりして、思い出深い撮影旅行となりました。



おさんぽおさんぽ楽しいな 塚本 啓互

カルガモは一年中身近なところで見かける留鳥となります。名古屋市内の鶴舞公園では毎年カルガモがヒナを産み育てています。カルガモは一日中泳いで遊び、疲れたらお休みしています。この写真は噴水の池から下の池に移動する様子ですが、楽しそうに揃って一番小さい子を挟んで歩いていました。

撮影条件：130mm F9.0 1/500秒 ISO200



おしゃべりしてます

塚本 啓互

サンコウチョウのオスは長い尾羽を持ちコバルトブルーの嘴とアイリングが特徴で、夏鳥として飛来し繁殖をしヒナを育てます。抱卵から給餌はペアで交代で共同作業を行います。この瞬間は、ヒナが欲しかった餌を他のヒナに与えたのを不満に思っているのを諭しているような感じでした。

撮影条件：600mm F6.3 1/500秒 ISO6400



子育ては大忙し

塚本 啓互

カイツブリは風貌が愛嬌が有り、もぐりの名人で本州中部以南に分布する留鳥として身近な池で見かける事が出来ます。子育ては浮巣を作り交代で抱卵を行い、ヒナが泳げないうちはオスが給餌を行いメスはヒナを羽の中に収め温めてあげます。この撮影のタイミングはまさにこの時であります。

撮影条件：500mm F6.5 1/160秒 ISO400



オナガガモの隊列飛行 三矢 保永

勅使池は名古屋南東部の境界に隣接する由緒ある大きな人工池で、冬の渡り鳥の飛来地になっています。1月～2月の間がもっとも賑やかになり、マガモ、オナガガモ、オシドリ、ミコアイサなどが間近に観察できます。写真は、オナガガモが一斉に飛び立ち、真横を通過したときに、連続写真を撮ったなかの一枚です。水面が銀色に輝いて静寂な雰囲気醸しだし、またそれぞれの鳥の羽ばたく位相の変化が、連続スローモーションを見ているようです。撮影日：2月18日 500mm 1/1250 f/8 +0.5RAWデータ再現像



早春の奥美濃笠羽谷

三矢 保永

奥美濃の石徹白（いとしろ）から入る野伏ヶ岳（1674m）は、残雪期（3月中旬から4月中旬）しか登ることができませんが、晴天を狙えば初心者でも雪山登山が楽しめます。今回は4回目です。期待に違わず白山連峰南部の雄大な景色を堪能しました。頂上の北風の冷たかったこと。笠羽谷は銚子ヶ峰（右側の半楕円形の尾根の最上部）に源を発する谷で、源頭部（右奥の残雪が豊富に残っている斜面とその下の台地）の広大な雪原は圧巻です。撮影日：4月10日 92mm 1/125 f/14



花蜜のお礼に花粉を運ぶ 三矢 保永

シイやカシなどのドングリの木は、いろいろありますが、素人には、区別するのがなかなか難しいです。写真はシラカシの花で、高い位置にある雌花（上向きの数珠状）と雄花（下向きのブラシ状）を撮影するために、300mm望遠で撮影中に、クマバチが花蜜を求めて飛び回っていました。木から離れるときの写真を偶然に撮影でき、しかも、背景の漏れ光の輪のなかにすっぽり入る瞬間です。脚は花粉の玉でまるまると太っています。撮影日：5月18日 300mm 1/2000 f/8



梅一輪

森本 一史

日本梅の会会長で、長年、東京農大にて果樹全般にわたり栽培研究・指導にあたられた大坪孝之先生によりますと、全体を観る桜と違って、梅の花見には一つ一つの花を楽しむ良さがあるため、満開よりも二三分咲きといわれる頃が充実しているとのことのようなのです。花梅は「3系9性」に分類され、本品は、野梅系（やばいけい）青軸性（あおじくしょう）です。枝やガクは常に緑色で、蕾も緑白色。花は青白色。撮影日：2020年1月30日 撮影地：徳川園 50mm 1/1000 f/6.3 ISO400



風のいたずらでしょうか？ 森本 一史

Rose Garden で、滝の堰堤の上に文字を見つけました。昨年のことだったので、今年も確認しなかったのですが、ついに行きそびれてしまいました。撮影日：2020年6月5日 撮影地：東山植物園 75mm 1/320 f/11 ISO400



巨岩が握る打ち出の小槌 吉野奈津子

高知県中津溪谷です。道中に七福神が隠れていて探しながら奥の滝へと進みます。見つけるのに一番苦労したのがこの大黒天。打ち出の小槌はあるけれど・・・色々な方向から眺めてやっとお顔が見えるポイントを発見しました。見つかりましたか？小槌の右側に目・鼻・口があります。撮影日：2017年9月 高知県仁淀川町

宮地山天空

吉野奈津子

宮路山の散策路を歩いていて、ふと上を見上げた時の様子です。山にはよく行くものの樹冠にこんなにきれいにハニカム構造が見えたのは初めてで、心躍って思わずシャッターを切りました。自然が作る造形には数学の色々な法則があるそうで、素人ながら数学を感じた一瞬でした。

撮影日：2021年1月
愛知県豊川市宮地山



森に泳ぐ鯉のぼり

吉野奈津子

加茂荘花鳥園での一枚です。桃山時代から代々庄屋であった加茂家の庭園で、1ヘクタールほどある広大な敷地に、色々な種類のハナショウブが咲いています。庭園手前は華やかですが、森の奥に進むにつれハナショウブがハスに入れ替わり、ひっそりと泳ぐ鯉のぼりが、神秘的な雰囲気醸し出していました。撮影日：2021年5月
静岡県掛川市加茂荘花鳥園